

会議名称	第4回 杉並区みどりの基本計画検討委員会	
日時	令和6年1月24日(水) 18:00 ~ 20:05	
場所	杉並区役所8階第AB会議室	
出席者	委員	9名
		河村委員、佐藤委員、竹内委員、和田委員、石川委員、稲田委員(途中退席)、武井委員、野田委員、峯岸委員
	事務局	5名
		都市整備部土木担当部長：土肥野 都市整備部みどり施策担当課長：吉野 都市整備部みどり公園課みどりの計画係長：北澤 都市整備部みどり公園課みどりの計画係：長谷川 都市整備部みどり公園課みどりの事業係：津金
傍聴者	3名	
資料	○次第 ○杉並区みどりの基本計画検討委員会（第4回）資料 ○（別紙1）杉並区みどりの基本計画取組一覧 ○（別紙2）関連計画との取組比較一覧表 ○（別紙3）杉並区みどりの基本計画素案構成	
会議要旨 1 開会 ○事務局 新年あいさつ。  2 議題 ○事務局 本日の進め方について説明。杉並区みどりの基本計画のみどりの将来像と基本方針について説明。 ○進行役 ただ今の説明について、ご質問・ご意見をお願いします。 ○委員 7ページと10ページが受けの関係にあると思います。将来像と基本方針1、2はよく考えられていると思います。基本方針3「みどりのある未来にいま変えよう」の「いま」		

- について、もう少し詳しくお聞きしたいです。個人的にはバランスが悪いような気がして。
- 事務局 岸本区政になり、ゼロカーボンシティを進めているところです。区長ともお話しをする中で、現時点をターニングポイントにしないと将来住めないまちになるのではないかと危機感があります。そのようなことを鑑みて「いま」という表現にしました。
- 委員 そうすると、なぜ「いま」なのか前書きがあると分かりやすいと思います。
- 事務局 序章や1章で説明を加えたいと思います。
- 委員 「いま 変える」という表現はよいと思います。目に見えて気象が変化しているのを感じていて、年末年始は暖かく、梅雨はほとんど雨がなく、台風のコースは急が変わっていました。明らかに環境が変化する状況の中での計画改定において、書き方（表現）はよいと思いました。
- 委員 前回の基本方針5つは、現行のみどりの基本計画のマイナーチェンジでした。しかし、今回の基本方針は前向きで、3つに絞ったため分かりやすく、次は何を取り組むのだろうという姿勢を感じました。
- 委員 前回の意見をまとめて分かりやすくなったと感じています。9ページ「自分ごととして考える・主役」は、少し意味合いを強く感じます。区長さんは、「対話重視」のように感じていますので、「多様な立場を理解し、対話をしながらみんなで作っていく」というような表現に変えてみてはどうでしょうか。将来像と基本方針についても良いのですが、現計画の基本方針5「みんなでみどりを育てよう」の表現がないので、「みんなでやろう」といった意気込みを表現できると良いと思います。
- 委員 若い世代も分かりやすいと思います。
- 委員 変える・チェンジという表現は良いと思いました。将来像にある「みどりがある当たり前」は、現在ある当たり前のみどりが、実はそうではなく、このままだとみどりは減ってってしまうよねという意味が繋がる表現にできれば良いと思いました。
- 委員 関連計画との比較の中で、杉並区みどりの基本計画は他関連計画とどのような位置づけになっているのでしょうか。
- 事務局 他関連計画と並列であると理解しています。
- 進行役 意見がないので、取組一覧について進めたいと思います。
- 事務局 取組一覧について説明。
- 進行役 ただ今の説明について、ご質問・ご意見をお願いします。
- 委員 13 ページを読んでいて思いましたが、数年前、シャレール荻窪にあったサクラが訳あって伐採されました。内容については理解できます。しかし、伐採にあたり啓蒙も必要だと感じました。15 ページ一家一鉢運動は理解できます。しかし、渡したとしてもきちんと成長させる人、一方で枯らせる人もできます。一律よりも、育てることについての有無を選択制にして、種や野菜など多様な植物を育てる選択肢もあつたらよいのではないのでしょうか。制度設計について整える必要があります。16 ページに記載の公園での企画も良いとは思いますが、企画する事業者の質は異なります。それによって区民への行政サー

ビスの質を低下させてしまう可能性もあり、賛否両論あるでしょう。企画するときは、その点に留意する必要があります。20 ページ 3-3 風格のあるまちなみ景観が選ばれるまちの未来をつくるという言葉は、難しい表現です。以前お話しした「選ばれる」は、地域間競争で選ばれるという意味だと理解しています。ですので、住民の方が新たに引っ越してくる又は住み続けるという点で大事ですが、「地域間競争で選ばれる」という表現にしないと選ばれるという表現に唐突感があります。次に細かい点ですが、「柵」は公に公開するときは、平仮名の「ます」だったはずです。

○委員 卒業記念樹についてです。30~40 年前、小中学校の卒業生徒に苗や鉢を配布していた記憶があります。なぜ、またやろうと思ったのでしょうか。

○事務局 きっかけ作りが必要だと思いました。みどりに関心を持ってもらうファーストステップとしてまずは一鉢を育ててみる、そうすれば、もう一鉢育ててみようかと続くと考えました。卒業記念であれば皆さんが通る道なので入れました。

○委員 寄せ植え講座も今回発案されたアイデアなのでしょうか。

○事務局 元々みどりのベルトがあり、事業を推進するために花の寄せ植え講座をしていました。

○委員 今もみどりのベルトは事業としてありますか。

○事務局 現在基本計画改定中で過渡期なので、方向性を検討している段階です。

○委員 井草と高円寺のみどりのベルトは、別物でしょうか。

○事務局 異なる事業です。井草地域は地元が主体だと記憶しています。みどりのベルトを始めた頃、ワークショップしながら、それぞれ自分の家に鉢を置いていました。元々は都の事業で、久我山地域で進めていました。そこから高円寺地域でも進めました。現在は事業費も人手も必要ということと、コロナもあって縮小しています。

○委員 みどりを守ることはお金がかかることなので、ボランティアを増やすことは必要だと感じています。聞いたところによると、ボランティア活動には少しハードルがあると聞いていますが。

○事務局 ボランティアをする前に、ボランティアとは何かについて知ってもらう必要があると主管課は考えています。何をするのか分からない、一人だけで長続きするかは分からないといった疑問があると思います。こんな内容に携われれば続けられるのではないかとということも踏まえて、みどりの講座を作り、団体を作り、各地域で活動しています。ただ単に、ボランティアをしてみたいということであれば認定ボランティアを紹介できます。ボランティアをしてみたいというお話しがあれば、お声がけください。

○委員 援農ボランティアとは別物でしょうか。

○事務局 別物です。講習を受けるなど、それなりにハードルがあります。

○委員 13 ページにみどりがあることの弊害が記載されていますが、みどりがあればそれで良いというわけではないので、これは重要なことだと思います。家には樹齢何百年という保護樹木が5本あります。ケヤキの真下には歩道があるので、もし枯れ枝が落下した場合に誰の責任になるのだろうと弁護士に相談したことがあります。結論としては、「区の保険に入っていたとしても所有者の責任になる」ということで、ビックリして剪定しました。そ

の時、クレーンや命綱を着用した人が作業し、費用もかなりかかりました。この費用を毎年払うことは難しく、代々剪定していないこともあり今は剪定をしていません。定期的に剪定すると費用も無限にかかる一方責任もあるので、寿命を迎えた木は樹木医に診てもらい、事前のアナウンスと説明をして伐採する必要もあります。ですので、13 ページ1-3は良いと思いました。次に、剪定の補助費用についてです。補助費用は、自分で剪定すると一銭ももらえず、剪定した人と不利益になってしまいますので、一定の定額補助制度は残しつつ、プラスアルファで費用を補助するという形で考えて頂けるといいと思います。

○委員 17 ページの生きものの「鳥のほか、チョウやバッター～」と記載されています。某番組で哺乳類の特集をしていました。杉並区も哺乳類について記載してはいかがでしょうか。

○委員 13 ページの終活の表現についてですが、気候変動により適応できない植物、人と共存するためには適切な管理をするという書き方が適正だと思います。枯れていなくても、密になると適正な管理ができない等、都市には管理が必要だということです。樹木の病気や現状について学ぶ、学ぶだけでなく活用する（コースターなど）、考える、実際にするところまで盛り込むことが必要です。次に、せっかく杉並区は先進的に農福連携をしていますので、他部署との連携も入れていくことが必要です。福祉施設の連携の場づくり、区民との交流の場づくりが区の役割だと思っていますので、そのような表現にしてはどうでしょうか。次に、19 ページみどりを活かして安心安全な未来をつくる場所に、公園を共助の場となることを加えてはどうでしょうか。最近でも震災があり、不安を抱える中で、公園がコミュニティの場として機能することが大事です。普段から、街区公園を自治会が活用して防災の観点として使う、花壇や野菜を作って近所の顔見知りを作るなどしながら、公園の管理運営に関わりつつ、安心安全な場となることを表現すると良いと思います。平常時からリスクに備えることが大事ですので、そこが防災の部署と連携できることなのかなと思いました。全体を通してですが、これを読んで区民が楽しくてやってみたいと思う書きぶりがないかなと思います。自分の家には庭はないけど、公園で花や野菜を作りたいなと思った人が、お手入れに参加してみるといったことが、書かれていません。子どもの意見にも、みんなで木を植えるといったことが書かれていたので、学校で植えるとか、17 ページの在来種のリスクをみて、自分で好きなものを植えるとか、マルシェやキッチンカーも杉並区の野菜を使う、食べるだけでも関わりにはなります。あとみどりの基本計画ができて、HP にて公開されたら、リンク先をクリックすると色々な講座が出てくると本当はいいのかなと思いました。例えば、在来種のリストをクリックすると、サイトに移動できると理想的です。

○委員 13 ページについて、現場にいと、隣の家は切ってほしい、その隣の家は西日が当たるから切らないでほしいと言われます。そして、切ることが決まって切り出すと、チェーンソーがうるさい等、色んな意見があります。そのようなことも提起しながら、進めることができたらと思います。12 ページの副読本についてですが、学校業界からすると、余計な仕事をさせるなという意見もあります。ですが、せっかく作るならば、絶対ここは教え

ておいてよというポイントを先生方に伝えて頂けるといいのかなと思います。副読本を作りました、配布しただけになってしまうと、事務室に置きっぱなしになると思います。

○委員 18 ページの剪定枝は再資源化処理施設による堆肥化を推進とありますが、前から環境課で助成しているコンポストとは違う理解でよろしいでしょうか。

○事務局 公園で剪定した枝を再資源化施設に持っていき、堆肥化して、各地で利用するというサイクルで堆肥化を進めるということです。

○委員 16 ページの民間活用ですが、どういう分野のどういう範囲にノウハウややり方を活用するお考えなのでしょう。その点について、深掘したほうがよいと思います。漠然と書いていると、区の知識に詳しい事業者が著しく優位になる場合や区外の事業者がやろうと思うと区の考えと違う事業者がきてマッチしないことが考えられます。

○委員 16 ページはみどり公園課として現場の話ですから、もっと魅力的なことを記載しても良いのではないのかなと思いました。例えば、家の近くの公園は閉鎖的で、同じような公園ばかりです。もっとオープンスペースになっていて、芝生で子どもが遊べる、花壇がある、一律同じような公園ではなく、その場に応じた魅力的な公園を杉並区は作るというそんな計画になったらと思いました。

○委員 杉並区には竹林がありますか。

○事務局 あります。

○委員 例えば、国立天文台や都立大学には竹林があります。近隣の幼稚園や小学校を対象にタケノコ掘りをしていました。教育プロセスとしていいと思います。杉並区でも事例はありますか。

○事務局 例えば、炭焼きというイベントがあり、竹林を普段ボランティアと共に管理しています。タケノコ掘りもあると思いますが、そんなに量はありません。

○委員 大枠についてです。基本方針と取組の内容のつながりが不明確なところがあります。今までにない基本方針なので、基本方針1～3について掘り下げて議論をしないと、取組が分からないと思いました。基本方針1「みどりがある当たり前を変えよう」というところでは、私の理解では、みどりが一見あるようだけど、それは当たり前ではないよね、当たり前ではないみどりってどういうことなの、杉並区のみどりについてちゃんと知ろうよ、どんな状況なの、何で当たり前ではないの、ということが分からないと基本方針1の意味が分からないと思いました。このままいくとますますみどりは無くなり、質もなくなってしまふよね、区民でできることは何だろうね、というふうに考えていけるような流れが分かればいいと思います。基本方針2、3も同様です。取組は前にあったものを取りあえず突っ込んでいただけだと感じました。もう一度、ご検討した方がよいと思います。基本方針2「つながる」というところでいくと、今ある既存のみどりだけではなくて、農地とか色々あると思います。みどりのネットワークを、緑地や庭なども含めて具体的につないでいくイメージだと思っていましたが、取組の内容だけ読むと大きな方向性が見えてこないと思いました。例えば、「みどりのあるまちに変えよう」となると、海外の先進事例だと、コペンハーゲンやニューヨークは視覚化しています。公園や緑道をつなぎ、イギリスのフッ

トパス的な意味合いもあるかもしれませんが、みどりをつなぎ、辿りながら、そうすると公共施設、図書館、商店街がある、そのようなものをイメージして、実現するためにどのような取組を進めるのかなといった流れがほしいです。基本方針3「みどりがある未来をいま変えよう」というのは、新しい言葉が未来形でいいなと思っていました。しかし、ワクワクしないのはなぜかなと思っていて、フューチャーがよく分からない、みどりがある未来のビジョンが見えないと思いました。次も大枠についてです。中間支援組織の取組は、最終的にはまちのみどりを良くしていき、人もまちも、自然もみんなが元気になるみどりのまちづくりを掲げて進めています。そのためには、みどりのことを知り、行動していく人を作らなければならないです。環境教育のセオリーとして、取組の中には、まず問題を知る・楽しさを知る・価値を知るという文言が点在しています。次に学び、最後に行動する、人の行動変容を促すことが必要だと思えます。その流れがバラバラ過ぎて、理解できないと思いました。行動については、ボランティアもそうですが、区民がどう動いたらいいのかについては書いてはあるのですが、つながりが分からない。例えば、イベントに来た人に、講座とかで学んでもらい、変えていくという流れ、常に人流を作っていくことを意識しています。バラバラだと、うまくいかない。みどりに関わる人を作る戦略的なスキームがないので、以前とあまり変わらないのではないのかなと感じています。もっと、行動変容を促すこと、これはチェンジということなので、実際の戦略が足りないと思いました。12 ページのみどりの意識を高めるところでは、いきなり副読本になっていて、とっつきにくいところから始まっています。もっと、みどりを楽しんで、もっとみどりの価値を知ってもらうところから進めていくという書き方ももっと意識することが大事なのかなと感じました。緑化副読本はかたいです。1-2 はみどりの新聞となっていますが、いまも新聞？というような。例えば、みどりのポータルサイトを作っていくとか、これから十年のみどりの基本計画を考えたとき、もっとアナログではないこともたくさん記載していかなければならないと思います。13 ページは、公園樹木や街路樹等と公有地しか記載されていません。杉並区の場合、みどりと共生を考えると民有地もあるので、そこについても入れていかなければならないと思います。13 ページ・14 ページということでお話しをすると、杉並の原風景と関連してきますが、杉並のみどりや杉並らしいみどりをしっかり理解することが必要で、屋敷林の理解だけではないです。これから充実させて、しっかりと整合させていかなければと思います。みどりについての意識を高めていくということでは、今回の基本計画の中で、杉並らしいみどりを作っていくこと、シビックプライドを高めることが必要だと思えます。その、杉並らしいみどりを知ることについての書きっぷりが足りないのではないかという風に思っています。15 ページについては、「住宅や店舗を一定以上緑化する義務がある」の「義務」は、これはやめた方がいいと思います。やる気のなくなる言い方だなと。一家一鉢運動は、私は積極的に思っていません。逆にもらうことで困って、みどりが嫌いになる人もいるのではないかなと思います。枯れて心が痛む上に、鉢をどうしようみたいな。他の方法はないものかなと。例えば、世田谷区では、両隣三軒一緒になって近所とみどりを増やしていく施策があるのですが、そ

ここでは一家一鉢運動みたいなものは無駄だといってやめて、そのお金を別の物に使おうということで、みどりのアドバイザー制度を作りました。そして、一年草ではなく、宿根草を花壇に植えることで、ずっとみどりであることをアドバイスするアドバイザーを派遣しています。そのような見える花壇を作って、人に興味を持ってもらい、私もやりたいなと思ってもらわないと、みどりの価値も伝わらないし、そのような取組をすることで、じわじわとみどりの価値や良さが分かってくるので、一斉にみんなに苗と鉢を渡すことはやめた方がよいと思います。次に、取組は区民と区だけとなっていますが、事業者が抜けています。例えば、みどりを育てつなげるまちづくりでは、一番重要なのはデベロッパーや不動産、ハウスメーカーだと思います。その事業者が、知っていれば、壁面緑化、屋上緑化、生垣緑化等できると思いますので、そのような視点が抜けていると思います。16 ページの公園関係でも、何か限られていてワクワクしないです。昨年、国土交通省で都市公園のあり方検討委員会があり、公園を核につなげるまちづくりと書いていますが、その意味合いとはずれているところもあります。公園のルール作りを目玉とありますが、ルールではなくて、区民が使いこなせる仕組み作りということを考えて方がいいと思いますし、その中で、ルールを決めていくのではないのでしょうか。17 ページについては、事業者との連携や在来種を使用することのサポートを区がするなど。例えば、ポートランドでは在来種を植えるとかっこいいサインをもらえてそれをみんな家に建てたがるのですが、杉並区は住宅都市なので、そのやり方があっているのかなと思いました。その他ページももっと見直す必要があると感じますし、私たちも考えなくていけないなと思いました。

○委員 この計画改定を委員会の中で、どこまでするのか整理しないといけないですね。限られた時間しかありませんから。次に、小さい公園の個性についてです。杉並区は、暗渠にして作った小さな公園があります。昭和 40 年代頃を中心に作ったようで、古く、みどりがありません。そのようなところに、鉢植えや寄せ植えをしたらどうでしょうか。他にも、杉並区にある金太郎の看板を写真撮影している人がいまして、昔のランドマークを知りたい、起源を知りたいニーズもありますので、そのような公園をリフレッシュしても良いのかなと思いました。

○委員 他委員が、「みんな」が足りないとお話しがあったように、基本方針で「みんな」が足りないから取組内容にも影響しているなと感じていまして、協働や連携についてもものすごく足りないと思っています。取組には区民と区しか記載がなく、区民は一般区民を意味しているように思いますが、区民には事業者、大学、学校など色々な主体がありますよね。そのあたりがスパンと抜け落ちています。あと、色々な分野ですよね。教育、福祉、医療、観光、芸術といった分野をまたいだ連携がみどりには必要だと思いますが、そこもなく、以前のままのものをそのまま刷り込ませているように感じますので、もっと頑張ってくださいと思います。

○委員 具体的な構成は、別紙 3 にありますけど、先ほどの委員が述べたものをどこに入れていくのか、1 章なのか序章なのか。みどりがあるということが、何が当たり前で何が当たり前ではないのか。みどりを変えていくことがなぜ必要なのか。1 章に入れようとしているよ

うですが、序章ぐらいいった方がいいのかもしれませんが。全体的な構成を考えると、区  
の目標と現実には乖離がかなり、それをどう埋めていくのか。

○委員 乖離というか、足りてないし古臭いところもありますので、未来的にワクワクしないとい  
うことです。上位計画として国も示しているのに、杉並区はこれだけみどりも多いのに、  
とても残念なように思います。基本方針についてきちんと説明し、だからこういう取組を  
しますというストーリーが必要だと思います。みどりがつながるまちも皆思っていること  
はバラバラで、それをちゃんとこういうまちにしようね、じゃあ取組はこうしようとな  
るし、みどりを変えようとはどういう未来なのか、じゃあこうしようということが分か  
りづらいです。

○委員 それは、序章で記載されているのですか。

○委員 取組内容の考え方について委員がわからないと、取組が良いのか悪いのかの判断できませ  
ん。協働関係についても記載がないです。全体としては分かりやすいですけど、足りない  
ので思いました。

○委員 足りないのは分かりますが、予算もあるわけで、理想はこうだけど、とりあえずここまで  
という視点も必要だと思います。

○事務局 基本方針、取組、目標とつながるようなストーリーが記載されていたらよいのですが、委  
員が述べたように、基本方針と取組に乖離がありますので今後検討したいと思います。

○委員 乖離があるというわけではなく、みどりがあるあたり前を変えようのあたり前って何から  
始まり、あたり前を変える必要があるとはどういうことなの、私たちはもっと杉並のみど  
りを知りましょう・学びましょう、ということなのですが、取組では杉並のみどりではな  
くなくなってしまいうような気がしますし、書き方が難しくなっているの、再検討し  
た方がよいと思います。みどりの新聞を発行ともありますが、こういう時代なので、ポ  
ータルサイトを作っていくましようとか、中間支援団体を作っていくとか他の取組もやっ  
ているところはあります。予算に左右されず、これは必要だと書いていった方がよいと思  
います。

○委員 施策をいきなり示しているの、これを区民にいきなり公開すると分からなくなってしま  
います。事務局はこういう施策をしたいからお見せしたのだと思いますが、間に、みどり  
があるあたり前を変えようというのはこういう意味がありますよということは記載した  
方がよいです。所有者さんは苦労しながらも守ってきたということが、冊子になるときに  
は、基本方針1「みどりがあるあたり前を変えよう」には絵みたいなもので入るとよいで  
す。土地を持ってこれだけ守ってきたけど、結構苦しいという人がいたり、農地を持っ  
ているが、自分が亡くなったら息子は継がないしどうしようみたいな人がいたり、こんな小  
さな住宅が建って日陰になって樹木が邪魔だな、落ち葉が邪魔だなという人がいて、今あ  
るみどりは結構苦しみながら守ってきたりして、ギリギリだよというような前段の絵があ  
ると、分かりやすいです。それに対して、苦しい人は助けていくとか、助成金や基金が必  
要だとか、間をつなぐものがあればいいのかなと思いました。2番目の「つながるまちに  
変えよう」というものも、今あるけれどもつながりが失われてきてしまった、バラバラだ



よね、だけどこここに空き地ができたときに植えると動物が繋がっていく、川を開渠にすると、少しつながるよねとか。バラバラだけど、自分の家で少しやればつながることあるよねとかを入れるとよいです。最後も、将来このままでいいの、このままだと、気候変動で、急に川があふれたときまずいとか、いまある木は別の種類に変わっていくとか、地震とかあったらどうしよう、そのために、農地は保全する、住宅密集地はどうするとか絵があると分かりやすいイメージがつながりやすいです。この基本計画の構成案では難しい、方針に基づくストーリーで語った方がいいと思いました。

○委員 既存の計画でもいいものはあるが、スクラップ&ビルドをする、同じことをやってもブラッシュアップするとか、既存の取組を十年見据えて書き込んでいかないと、今のままになってしまうなど危機感を感じました。他の自治体や海外でも成功例もたくさんありますので、そういうところと、杉並区の良さを組み合わせて書くと良いものが生まれると思いました。区民の人たちの気持ちやモチベーションが上がっていく、変えるんだというような気持ちにもっていく流れができる表現になればよいと思いました。

○委員 成果は、構成案から冊子ができるのですよね。素案を見せてもらいながらでないといけない。この計画ができあがるのはいつになりますか。

○事務局 たたき台を3月に作って意見をもらい、令和6年11月に策定予定です。できるだけ素案を詰めてご意見をもらいたと思います。

○委員 基本方針と取組の内容の間に、どのような戦略を持っているのか、こういうことをするということが見えてこない、区民の方も分かりません。杉並区の素材はたくさんいいものがあります。どう組み立てたら、忙しい30~50代の人にみどりに関心を持ち、自分たちの住んでいる地域のみどりと環境、そして人とのつながり、まちの発展を、戦略的にきちんとみどりの基本計画で考えられるのかが大事です。その点を練った段階で、もう一度見せてもらえるとよいです。

○委員 そろそろ内容をまとめ上げていく必要があります。簡略化されたパワーポイントの資料は、分かりやすいのですが全体像がぼやけてしまう。

○委員 方針と取組一覧について、戦略をどうしたらいいのかについてお話しがありました。私は、1つ目は官民連携の人材育成、2つ目は他事業との連携、3つ目は整備だけでなく管理運営の予算を継続的に投資すること、4つ目は新技術の活用だと思います。今後、予算をとっていくということも考えるとデータを整備するとか、組織が新しく必要であれば人材を育成することとか、整備だけでなく管理運営にお金が必要だということについては、みどり分野について強調して記載して頂ければと思います。

○委員 ここにいる人はみどりが重要だということが分かっていると思いますが、みどりが嫌い、育てたくもないという理由を知りたい。自分の住んでいる家が適さないのか、それとも性格的に嫌なのか、枯れてしまうのが嫌なのかということが分かれば、そのようなことを改善することでもう少しみどりに携わってもらえるのではないのかと思います。みどりの好きな人に対しては良いですが、嫌いな人に対するアプローチを考えた方が良いのかもしれない。

○事務局 再度頂いたご意見をもとに、事務局で詰めたいと思います。

3 連絡事項

なし